

2010年3月13日付け「長江ネット」より

武漢を愛する河野夫妻

～定住10年記念し、3000本の桜を贈呈～

昨日、武漢外国語学校の校内に「桜は中日友好の使者」と刻まれた石碑が建てられた。日本からの友人で武漢市名誉市民である石橋英一夫妻が生徒たちと一緒に12本の桜の木を植えた。桜の木は石橋夫妻から外国語学校へのプレゼントである。

今年、80歳になる石橋英一氏は退職前、日本文理大学の副学長を務め、終身教授で、妻の石橋静子さんは音楽家であり、音楽評論家でもある。

1987年、石橋英一夫妻は武漢へ旅行に来て、この都市をととても気に入った。1992年、石橋静子さんと20名以上の音楽をこよなく愛する日本の主婦が武漢を訪れ、民間文化交流を行った。その後、彼女は3万ドルを出資して武漢音楽学院に基金を設立し、「武漢さくらカップ声楽大会」を開催し、2年ごとに30名の音楽専門学生を奨励した。現在までに、本大会は6回開催され、中南5省8か所の高校の学生が参加している。

2000年、石橋英一夫妻は退職後武漢を再び訪れ、住宅を購入し、定住を決心した。以来10年、石橋夫妻は子供と孫に会うため、年2回日本に里帰りする以外はすべて武漢で過ごしている。

昨日、石橋英一氏は「武漢はととても素晴らしい！武漢の人もととても素晴らしいです！」と簡単な中国語で記者に伝えた。

夫妻はこれまで、武漢の学校、公園、ごみ処理場などに3000本の桜の木を贈呈し、また学校、ジュニアセンターにピアノを贈呈、農村部の小中学生の貧困学生に資金援助を提供している。



石橋さんが武漢外国語学院の院長さんと共に桜に水をやる様子

天河空港第三期工程が予備調査へ

天河空港の昨日の情報によると、3月8日武漢天河空港第三期建設プロジェクト提案書が、国家発展改革委員会により了承され、正式に予備調査の段階に入ったことを明らかにした。

国家発展改革委員会の批准意見によると、武漢天河空港第三期建設プロジェクトは2020年旅客処理能力数を3800万人、貨物と郵便物の流通量は44万トンに達するように設計されている。今後建設予定の東飛行エリアは4Fレベルである(空港の中で最高の飛行エリアであり、エアバスA380の離着陸が可能となる)。

建設内容は以下のとおり。

長さ3600メートル、幅60メートルの第二滑走路一本。

長さ3600メートル、幅25メートルの平行するタクシーウェイ2本。

4通路の垂直ボーディングブリッジ

54機収容可能エプロン駐機場、35万平方メートルの第三ターミナル、5500平方メートルの航空管制棟、1.1万平方メートルの国際貨物運送ステーション、14万平方メートルの駐車場、8000平方メートルの宿泊施設、24000平方メートルの航空会社が入る事務所棟
他に、ナビゲーション補助システム、誘導灯、航空管制システム、通信、給油、配電、給排水、冷却機、消防施設などの業務及び利用客支援のための付帯施設や設備を整備することになっている。

情報によると、当プロジェクトの総投資額は146.16億元で、そのうち、空港建設に資金は141.65億元である。中国民用航空総局、湖北省並びに武漢市人民政府はそれぞれ民用航空専門建設基金及び地方財政から一部の資金を負担することになった。残りの資金は湖北航空グループ会社より調達し、同グループを空港プロジェクトの法人代表とした。

現在、これにより、天河空港第3期計画前期工程である詳細フィジビリティ報告策定作業と第3ターミナル具体設計、空域利用計画、飛行ルートプログラム作成、土地利用変更申請などの作業が進めていることとなる。